

<授業実践1>「現代の国語」話すこと・聞くこと

1 単元名

合意形成を図るための話し方を身に付けよう

2 指導目標

(1) 単元の目標

・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。〔知識及び技能〕(1)のイ)

・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)のオ)

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 言語活動

ア 言語活動

公開話し合い（合意形成を図る話し合い）

イ 言語活動のねらい

合意形成を図る話し合いを通して、「合意形成に向けて話し合いの内容を調整する話し方」や「グループ全体の納得度を高めるための話し方」などを身に付けさせたい。

公開話し合いの形式にすることで、聴衆がいて緊張感が高まる中においても十分に話すことができる力を身に付けさせたい。また、指導者の立場では、話し合うグループ数が制限される分、一人一人の話す能力をリアルタイムでしっかりと観察し、適切な評価に努めたい。

(3) 教材

ア 教材

「テーマを決めて話し合おう」（『新編 現代の国語』大修館書店）を参考に作成したワークシート

イ 教材観

ワークシートを通して指導する内容は、「合意形成について」「合意形成を図るための話し方について」「話し合いにおける記録の取り方について」などである。これを学習した後に、合意形成を目的とした話し合いの練習を一度実施する。話し合いの練習後に、合意形成を図る話し合いができていたかどうか、話し合い方について振り返る活動を実施する。これらの活動を実施した上で、練習とは別のテーマで公開話し合いに臨ませる。

(4) 学習者観

本単元は、話し合いを指導する単元の2回目である。前回は「話し合いに臨む基本的なルールや態度」、「ワールド・カフェ方式の話し合い方」について学習した。実際にワールド・カフェ方式での話し合いを行い、多くの意見を出し合うという経験を積んだ。

(5) 主体的・対話的で深い学びの工夫

第1次に、合意形成を図るための話し方の必要性についても説明し、本単元における自己目標を設定する活動を設ける（主体的）。

第2次の話し合いの練習を終えた後、合意形成を図る話し合いができていたかどうか、話し合い方についてグループで振り返る活動を設ける（対話的）。

第3次に、単元を通して、合意形成を図るための話し方について自分なりに学んだことや気付いたことを振り返る活動を設ける（深い学び）。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉の特徴や表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方を工夫している。	話し合いで合意形成が得られるよう、話し方を工夫しようと粘り強く取り組み、どのようにして話し合いに貢献するかについて自らの学習を調整しようとしている。

(2) 評価方法

ア 知識・技能

定期考査によって評価する。

イ 思考・判断・表現（話すこと）

公開話し合い時の行動によって評価する（主に第3次）。

	評価A	評価B	評価C
「合意形成に向けて話し合いの内容を調整する発言」や「グループで納得できる結論を導き出すための発言」など、話し合いの仕方を工夫している。	終始、話し合いの流れに合わせてながら、合意形成を図るために、意見や理由を分類したり整理したりする発言、質問したり確認したりするなどグループ全体の納得度を高めるための発言などを行っている。	話し合いの流れに合わせてながら、合意形成を図るために、意見や理由を分類したり整理したりする発言、質問したり確認したりするなどグループ全体の納得度を高めるための発言などを行っている。	話し合いの流れに合わせてながら、話し合いのテーマに沿った自分の意見やその理由などの発言をしている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

話し合いの練習時の行動、その後の振り返りの記述によって評価する（主に第2次）。

	評価A	評価B	評価C
第1次で設定した自身の目標が達成できるように話し合いの練習の活動に取り組んでいる（α）。	合意形成を図るための話し方を身に付けるために、何度も発言するなど、話し合いの練習の活動に自ら取り組んでいる。	合意形成を図るための話し方を身に付けるために、話し合いの練習の活動に自ら取り組んでいる。	話し合いの練習の活動に取り組んでいる。

合意形成を図るための話し方を身に付けるために、自分自身の課題について考えている(β)。	公開話し合いに向けて、合意形成を図る話し方という観点から、自らの改善点に気づき、その内容を具体的に記述している。	公開話し合いに向けて、合意形成を図る話し方という観点から、自らの改善点に気づき、その内容を記述している。	公開話し合いに向けて、自らの改善点に気づき、その内容を記述している。
---	--	--	------------------------------------

※ α・βは、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画(配当4時間)

次(時間)	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や活動内容を確認し、学習への見通しをもつ。 「合意形成」、「合意形成を図るための話し方」、「話し合いにおける記録の取り方」について理解する(ワークシート1)。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容「話し合いに臨む基本的なルールや態度」も扱う。 以前の話し合い単元で話し合った経験を踏まえ、「合意形成を図るための話し方」について、自己目標を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(知) □「記述の点検」(ワークシート1) *教科書の該当ページを確認するよう助言する。
第2次(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成を図る話し合いをグループで行う(公開話し合い前の練習)(ワークシート2)。 活動後に、合意形成を図る話し合いができたかどうか、話し合いの流れについてグループで振り返る(ワークシート2)。 公開話し合いに向けて、自らの改善点につ 	<ul style="list-style-type: none"> 公開話し合いの形式ではない。1グループ4人。以前の話し合い単元の様子を踏まえてグループのメンバーを指導者が決める。話し合う時間は20分程度。 *発言できていない生徒へは、質問や確認する際の話し方など、定型表現を伝える。 どのように合意形成を図り、結論に向かっていったのか、グループごとに全体発表させる。 合意形成を図るための話し方という観点から書くよう助言す 	<ul style="list-style-type: none"> ◇(態) ■「行動の分析」(話し合いの様子) ◇(態) ■「記述の分析」(ワークシー

	いて考える（ワークシート2）。	る。	ト2） *合意形成を図るための話し方について、公開話し合いでがんばりたいことは何？などと助言する。
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成を図る話し合いをグループで行う（公開話し合い）（ワークシート3）。 ・公開話し合いの評価者（聴衆）はそれぞれのグループの話し合いを評価・分析する（ワークシート4）。 ・単元全体を振り返り、合意形成を図るための話し方について自分なりに学んだことや気付いたことを書く（ワークシート5）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックを確認する。1グループ4人。2グループ同時進行で話し合わせていく。前時の話し合いの練習の様子を踏まえてグループのメンバーを指導者が決める。話し合う時間は20分程度。話し合いは教室中央で行い、それを囲むように評価者（聴衆）を配置する。評価者（聴衆）も2グループに分ける。発表の様子をタブレット端末で撮影し、記録する。 ・評価者（聴衆）から、全体進行、計時、記録などの係を選出する。 ・第1次で立てた自己目標を踏まえ、自己の成長に関しても振り返る。 <p>*振り返りを記述する際は、合意形成を図るための話し方という観点から書くよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思） ■「行動の分析」（活動の様子） ◇（態） ■「記述の分析」（ワークシート5） *自分が発言した内容、グループのメンバーや他のグループメンバーの発言、などをもとにして具体的に振り返るよう助言する。

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

合意形成に向けて話し合いの内容を調整したり、グループで納得できる結論を導き出したりする発言など、合意形成を図る話し合いに貢献する。

(2) 本時の具体的な評価規準

合意形成を図るために、意見や理由を分類したり整理したりするなどの発言、質問したり確認したりするなどグループ全体の納得度を高めるための発言ができている。

(3) 本時（全4時間中の4時間目）の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・本時の目標、活動内容、ルーブリックを確認する。	①公開話し合いや評価者（聴衆）の活動の流れについて確認する（ワークシート3）。	①グループ全体がうまくいくようにすること、また、合意形成に至るまでのプロセスを重視することを伝える。前時に2グループ話し合い、本時は残りの2グループが話し合う。
展開 (30分)	・公開話し合いを行う。 ・評価者（聴衆）は話し合いをリアルタイムで評価、分析する（ワークシート4）。	②公開話し合いを行う（ワークシート3）。 ③話し合いを記録したり、評価基準を満たす発言があったかどうかについて分析したりする。	②司会や記録などは特に定めない。結論に辿り着いたかどうかの判断はグループが行う。結論まで至っていない場合であっても話し合う時間は制限時間までとする。 ③発言内容だけでなく、常時、話し合いに貢献できていたかどうかなど、の観点からも評価を行う。 ■話し合いの様子を見て評価する。記録用としてタブレット端末で撮影しておく。
終結 (15分)	・単元の振り返りをする（ワークシート5）。	④合意形成を図るための話し方について自分なりに学んだことや気付いたことを書く。	④自分が行った発言などを基にして、具体的に記述させる。

6 研究の実際と考察

(1) 第1次（補足）

ア 身に付けさせたい話す力の設定について

前回の話し合い活動の様子、生徒の実態を踏まえて、本単元において身に付けさせたい話す力を設定した。今回は、合意形成を図るための初歩的な段階として、「意見の分類や整理」、「相手への質問や確認」などの話し方を指導内容とした。段階を経て、結論の質をより高めるための話し方や考え方を指導内容として扱っていきたい。

(2) 第2次（補足）

ア 話し合うメンバーを決める際の判断基準

「自分から話すことができる」、「質問されたりした場合は発言できる」、「質問されたり促されたりしても話すことができない」、「意見や理由だけは話すことができる」、「意見や理由以外の発言も、状況に

合わせて発言することができる」などで生徒の話す能力を判断した。また、日頃あまり話していないような間柄（人間関係）なども判断材料とした。これらの判断材料を踏まえてグループで合意形成ができるようにメンバーを決めるようにした。

イ 話し合い活動を行う際の声かけ

話し合い活動を行う際は、毎回、「話し合いに臨む基本的なルールや態度」について念押しするようにしている。話し方の技術的な面だけでなく、心理的な面や人間関係的な面などについても触れるようにしている。特に、話し合いと日頃の人間関係は区別すること、相手自体を否定したり傷つけたりするようなことは絶対に言わないこと、誰に対しても丁寧な言葉遣いをするなど、毎回、全体へ声かけするようにしている。

(3) 第3次（補足）

ア 公開話し合いのテーマについて

話し合いのグループ数は全部で4グループであった。2グループずつ話し合わせるという公開話し合いの形式をとったため、同一のテーマで話し合わせると後半に話し合う2グループが有利になってしまう。そこで、実際の授業では、前半に話し合う2グループと後半に話し合う2グループで、テーマを別に設定した。

イ 公開話し合いの評価者（聴衆）の活動について

評価者（聴衆）も2グループに分け、記録、評価する話し合いのグループを1グループずつ割り当てた。担当した話し合いグループ付近に、評価者（聴衆）を配置させた。黒板にタブレット端末「アラーム&クロック」アプリのストップウォッチ機能で話し合いの計測時間を表示し、評価規準を満たす発言があったかどうか、その発言内容だけでなく、何分地点の発言かどうか、時間も記入させるようにした。

ウ 指導者の評価の仕方（思考・判断・表現）について

生徒一人一人の話し方について評価することを目的として公開話し合いの形式にした。1グループ4人にし、2グループ同時に話し合うという設定にした。以前、1グループずつ話し合わせた際は、多くの聴衆に囲まれたことによる極度の緊張から、話し合い活動が十分に行えなかった。また、3グループ以上話し合わせてしまうと、一人一人を十分に評価することができなかったという反省があった。

評価する際は、指導者もワークシート4を利用し、「意見や理由を分類したり整理したりする発言」「質問したり確認したりするなどグループ全体の納得度を高めるための発言」のいずれかの発言が1度でもできた場合はB評価とした。また、これらの発言を、話し合い時間の全般にわたって発言することができている生徒をA評価とした。評価の結果は、A評価（5名）、B評価（9名）、C評価（4名）であった。

資料として下記に生徒の発言を示す（資料1・次頁資料2）。発言の質などの規準については、本校の生徒の実態に合わせて設定しているので、各校の実態や身に付けさせたい話す力の設定に合わせて、適宜、規準は検討してほしい。

【資料1 生徒発言例「意見や理由を分類したり整理したりする発言」】

「今出た意見の中で、目的に合っていないなど感じるものはある？」

「テントと小屋は暮らすという使用目的が共通しているから、意見をまとめてもいい？」

「じゃあ、今度は、自分以外から出された意見のよいところを考えてみよう」

【資料2 生徒発言例「質問したり確認したりするなどグループ全体の納得度を高めるための発言」】

「〇〇さん、リュックを持っていくって言ったけど、中身何か入ってるリュック？詳しく教えて！」
「水を持っていくという意見があったけど、持っていく以外で何とかできないかな？誰かアイデアある？」
「サバイバルナイフは、ナイフを使って、木を切ったり獲物を狩ったりするっていうこと？」

7 成果と課題

(1) 成果について

第2次において、話し合いの練習後に、グループで話し合い方（合意形成に至るまでの話し合いの流れ）を振り返る活動を行った。この活動により、合意形成の話し合いを、客観的に捉えることができ、生徒の理解がより深まったように感じた（資料3）。そして、公開話し合いに向けての自分なりの課題についても、それぞれが合意形成を図る話し方という観点から記述することができていた（資料4）。

【資料3 生徒記入例「結論に至るまでの話し合いの流れをグループで振り返ってみよう」（ワークシート2）】

- ①話し合いの目的について確認した（ワークシートにあらかじめ記載してある内容）
- ②話し合いの進め方について確認した（ワークシートにあらかじめ記載してある内容）
- ③全員が意見を言い合った（これ以降の内容は、グループで振り返って記述した内容）
- ④全員が意見を言い切ったか確認した。
- ⑤それぞれの意見のよさと悪さを言い合った。
- ⑥内容が分からない所を質問し合った。
- ⑦疑問が解消されたか確認した。
- ⑧どの意見が話し合いのテーマに合うか意見を出し合った。

【資料4 生徒記入例「公開話し合いに向けての改善点」（ワークシート2）】

「これって、こういう事だよ、とかの確認が、自分はあまりできなかったの、次回では、相手に確認してみたりしたいと思いました。」
「今回の話し合いで、グループ全員が私とは違う意見だったので、質問することが難しいと思いました。相手の立場を考えて質問したことで質の高い話し合いができたと思いました。次回の話し合いでも、相手の立場を考えて質問し、もっとよい話し合いにしたいと思います。」
「今までは勇気もてず、質問が少ししかできませんでした。でも今回の練習で、『～だったらどうしますか？』という風に質問できました。優しく質問すれば、相手も話しやすくなる感じたので、次も優しく質問したいと思います。」

(2) 課題について

思考・判断・表現でC評価の生徒への今後の指導であるが、まずは、質問することや確認することなどの表現（話し方）を確実に身に付けさせたい。また、C評価の生徒は、メモを取る意識が低いという状況が見受けられたので、メモを取って、それを基に発言するよう、併せて指導を行う必要性を感じた。